

むさしの学園同窓会 会報 第45号

2014年（平成26年）4月

〒183-0002 府中市多磨町1-19-1 武蔵野学園内

Tel. 042-361-9655 Fax. 042-361-7288

<http://himawari80.com/>

2014年10月25日（土）

同窓会主催『むさしの学園 90周年記念式典』開催!!

90周年は、音楽パーティで祝います!

90年間培われ、みなさんが味わった“多摩に息づくあたたかさ”と、
新校舎に込められた21世紀の“田園の教育”を実感しに来ませんか!



1924年に開校した「むさしの学園」は、昨年2013年に90周年を迎えました。
「むさしの学園同窓会」は、第1回卒業生を送り出した1925年から数えた90年目の今年
10月25日（土）午後2時から、むさしの学園にて『90周年記念式典（祝賀会）』を開催します。

「90周年記念式典」は、懐かしさに集うばかりではなく、2011年に完成し、さまざまな
小学校が注目し見学に訪れる「新校舎」に触れる絶好の機会ともなります。
親しい仲間、久しぶりに会ってみたい旧友とお誘い合わせのうえ、多くの方々にご参集いただき、
楽しい音楽とともに90周年を大いに祝いたい!と思います。

8月にあらためてご案内いたしますので、スケジュール表に記入しておいてください!

【ゲストミュージシャン紹介】

本多俊之 & ひまわりの仲間たち	本多俊之 サックス 46回生 森田宮子 フルート 70回生 本多尚美 ピアノ (本多俊之夫人) 影山郁絵 ピアノ or E-ピアノ 72回生 学園教員
---------------------	--

- ◆ 本多俊之さんプロフィール 1957年東京生まれ むさしの学園46回生
サックス奏者、作・編曲家、プロデューサー
大学在学中の1978年に初リーダーアルバム「バーニング・ウェイブ」をロスアンゼルス
のフュージョングループ “シー・ウィンド” を従えて発表。
以来、チック・コリア、フレディ・ハバード等、内外の著名ジャズミュージシャンと共演。
日本を代表するサックス奏者であり、特にソプラノ・サックスの音色の美しさには定評がある。
今回も、ソプラノ・サックスで登場です！
作・編曲家としても、TVドラマ、CM、映画からクラシック音楽まで多才な才能を発揮。
日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞した「マルサの女」（伊丹十三監督）をはじめとする
伊丹作品群の他、「ニュースステーション」「クローズアップ現代」などのテーマ曲、
NHK朝の連続テレビ小説をはじめとするTVドラマのテーマ曲の提供も多い。

- ◆ 森田宮子 (Miya) さんプロフィール むさしの学園70回生
2004年、東京でジャズフルート奏者として活動をはじめ。国内の一流ジャズミュージ
シャンをメンバーに迎え、リーダーアルバムをこれまでに3枚発売。
2010年新進芸術家海外派遣生として、ロンドンで作曲家の Jonathan Cole に指事。ヨーロッ
パで即興演奏家としての活動をはじめ、後に東京インプロバイザーズオーケストラを指揮す
る。帰国後はヴィジュアルアーティストや身体表現者などとチームを組み、音楽面からの空
間演出を多く手がける。2012年には横浜 BankART の Cafe Live のパフォーマーに選出され、
初のアートクリップ「Pink × Blue」を制作する。最近のプロジェクトは書道家・白石雪妃
との「直書観音」や、香りと万華鏡のための組曲「チャクラスイート」の作曲など。

記念式典への集い方 =こんな動機で集まってはいかがでしょうか！=

- ・クラス仲間に会う、きっかけになるね！
- ・新しい校舎、なかなか見に行く機会がないから絶好のチャンスだ！
- ・式典後に「クラス会」を予定すれば、クラス仲間みんなで参加できるな！
- ・音楽で祝う記念式典って、なにか楽しそう！ひとりだけど行ってみようかな！
- ・式典に参加するだけじゃなく、年配のヒトが多い幹事が大変そうだから手伝ってあげようかな！

原 点

むさしの学園同窓会会長 山手 亨（12回生）

ことし平成26年4月10日、我が学園は創立90周年を迎えた。おめでとう！
この秋10月25日(土)、学園において同窓会による記念祝賀を開催するので、ぜひ多数参集願ひ、喜びを共にしたいと願っている。

90年の道のりは、何と言っても大戦敗北の影響を受けて、順調に進んでいたコースの転換を余儀なくされたことである。即ち、この地こそ理想の教育環境と定めた西窪を時勢により20年を以て閉めざるを得なかったことが残念だった。

校舎を失っても、教師の使命感と保護者の熱意により、疎開先と教師宅で寺子屋風の授業が6年程続けられ、学園の灯火が消えずに守られたのであった。漸く再建が叶った武蔵境の校舎で14年のあと、多磨の定着が50年となった。

佐藤藤太郎・佐藤可南・江幡清彦3代の校長の下、建学の精神に従って学び、理解ある保護者に見守られ、時代によって人数に多少はあるものの3100名を超える同窓生が巣立った。

学園の教育方針は、大自然の太陽・緑・空気・土のなか、個別指導・自学独創の少人数教育である。また、これが使命である、と佐藤藤太郎先生が「田園の教育」誕生号（大正14年1月1日発行）文中の「むさしの学園の生まれましたわけ」で述べておられる。

また、理想を求めて意気投合した30歳代の同志3人が満鉄小学校の教職という安住に甘んぜず、3家族12人もろとも西窪に入村して生活を始め、開校に至るまでの準備の苦労と開校日の喜びを「むさしの学園の生まるるまで」に詳しく話しておられる。

理想、情熱、友情、挑戦、決断、勇気、実行、そして潔さと、深く感銘を受ける。
ぜひ、この冊子を一読してもらいたいものである。

西窪時代の「田園の教育」は毎月の発行で、30頁ほどの薄いものであるが、70年以上昔の学園を知る懐かしい貴重な資料である。

現在の「田園の教育」は季刊で復刊後、昨年12月で227号を算えるが、記念号の編年史や教職員在任期間一覧表など往時を回顧する上で大変都合がよいので、ありがたく頂戴している。

10年先の100周年、学園はどうなっているか。

少子化・高齢化社会が進む社会であっても、人材が揃いインフラの整った我が学園、事あるときには常に原点に立ち返り、叡智を絞って対処すれば、自ずと道は開けよう。

この90年、多くの人が学園に関わり去っていった。

学園を創立された3人の恩師。ご存命ならば、発祥の地に立って「来し方・今」をどう考えられるか、お心の内を伺いたいものである。

軍事国家だった日本、15回までの男子卒業生の多くが徴兵されたが、このうち17名の方が祖国のため榮譽ある務めを果たし戦没されたのは痛恨の極みであり、未永く慰霊の誠を捧げなければならない。また、満州から引き揚げた12人の3先生の家族は、現在おひとりが残るのみ。

吹本先生のご次男、11回生の泉さんが今も西窪当時の校舎跡地に在り、生き証人として発祥の地を見守っておられる。

創立の精神

むさしの学園小学校校長 江幡 清彦

1965年、佐藤藤太郎に呼ばれて学園に勤める際、「創立の精神」についての話は、特にはなかった。1984年、創立60周年記念号を編む為、藤太郎日記を始め関係の本を読み、2500枚程の原稿を書いた。その過程で創立の精神をある程度知った。だが既に創立当初の教師達は物故されており、私の読みとった創立の精神が本物であるか否かを確かめることはできない。それから30年の間に様々な機会が与えられ、創立の精神の大凡が分った。

【自然に還る教育がしたい】 吾等は子羊を青草の野に導く優しい羊飼いでありたい。

【小学舎で少人数の教育がしたい】 魂と魂のぶつかり合いでありたい。伸ばしたい。愛の翼で引き出したい。

【この道のため此の土に埋もれたい】 霊峰富士を仰ぐ武蔵野に三人の全てを投入して求めた土地と寺子屋がある。固く結ばれた三人の友情がある。スタンプのペスタロッチ先生を、松陰先生の松下村塾を思う。（「田園の教育」通巻6号）

これらから江幡が嗅ぎ取った創立の精神を、表現を変えて紙幅が許す限り述べます。

【聖書に基づく教育・赦し】 内村鑑三の弟子の創立者達は、「人もし汝に一里ゆくことを強いなば共に二里行け・何事も自ら進んで取り組めば、心は喜びに充ち溢れる」という聖書の神髄について創刊号から触れ続けている。それを実現する学校を創立することに意を注いだ。

聖書の精神は「赦し」。「赦し」とは、人の尊厳に関する事以外には寛容の心で接するという意味を持つ。

【命を預かる】 我が子が幼ければ、心身が不自由であれば、親は我が身をすり減らして接する。教師・師匠も児童・弟子の為に全力で接する。聖書には、ヨハネによる福音書13章の14節など、イエスが弟子達に向かって同様のことを話す場面が数多くある。吉田松陰と弟子達との関係も同様である。

【さいたくどうき碎啄同機・寺子屋教育】 親鳥が卵を温める。時が満ちると「もう卒業だよ！」中から雛が殻を突く、その音に呼応し、親鳥が外から突いて雛を出す様子が「碎啄同機」。雛の成長を待たずに殻を割ることはない。それは、一人一人の成長を把握し、可能な限り個々の成長に合わせる「寺子屋教育」でもある。

【切磋琢磨】 岩から宝となる欠片を切り出し、球体になるまで叩き削り落とし、表面が滑らかなになるまで磨く。岩は、我が身を削られ、血みどろになりながら成長する（という説を採用する）。

兄弟姉妹は本音で生活する。赦しと親しみと認め合う心、取っ組み合い引っ掻き合いが、家族を育てる。他人との間で同様の事は起き難い。学園では児童も教師も、他人事としないで本音で接するので切磋琢磨が成される。学園は「教」育よりも教「育」に軸足を置いている。

平成26年度同窓会総会

日時： 5月25日(日) 午後2時から1時間程度

会場： むさしの学園小学校 集会室(1階)

議題： 平成25年度決算、平成26年度予算
90周年記念行事、会員提案 ほか

会費： 不要

※ 総会后、野川公園前のそば屋「御狩野」(TEL 042-231-9367) で千円会費の懇親会を開きます。こちらにも是非ご参加ください。

事務局からのお願い

◎ 同窓会の動静、集まりをお知らせください。

◎ 同窓会費の納入をお願いいたします。

終身会費は1万円です。

同封しました郵便局の「払込取扱票」に金額の記入がないのは未納の方、記入があるのは残金のある方です。

郵便振替口座：00150-0-119359 加入者氏名：武蔵野学園同窓会

- ・通信欄に卒業年度と回数・組を記入し、氏名にフリガナを付け、数字はハッキリと。
- ・近況もご記入ください。

◎事務局への連絡方法：クラス会報告、ご感想やご意見、ご提案等をお待ちしております。

- ・同窓会には専従の事務員がおりません。
- ・ご連絡は、下記まで郵送かFAXもしくはE-mail お願いします。

送付先：〒183-0002 東京都府中市多磨町1-19-1

武蔵野学園内むさしの学園同窓会 FAX 042-361-7288

または 〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-25-8

高橋 治 TEL & FAX：03-3336-3206

E-mail： t.osa@jcom.home.ne.jp まで

むさしの学園 90周年記念式典 を想う

池上 健治 (37回生)

岩手県獣医師会遠野支会 会長

昨年の37期 可南学級のクラス会は、同窓会総会と同日に開かれた為、多数が総会にも参加する事が出来ました。

その席で毎年クラス会の纏めをしてきている照子さんが「同窓生と言うより家族と言う感じなのよね。」と話しかけてきました。私は「うん、そうだよね。」と素っ気無い返事をしてしまい、会話は途切れてしまいましたけれど彼女の学園への思い入れの深さを感じる事が出来ました。

彼女は、四年生の終わりであったでしょうか、お父上の転勤で遠い門司の小学校へ転校されたのです。その時の幼き少女の心情は察するに余りあるものです。ほかの転校を余儀なくされた方々も同じ思いだったことでしょう。当時の私は転校する方々の心の動きなど解らずにいたのですが、その2年後には自身も学園を去り(卒業し)、その悲哀を味わうこととなりました。

小学校のみの私学という学園の特異性で 卒業生全員が、温かい家庭から旅立つような厳しい試練を受け止めねばならぬことは確かでしょう。「井の中の蛙…」と言ってしまえばそれまでですが、しかし、この蛙たちなかなか強かに大海を泳ぎ回っているようです。

私も学園卒業後も社会人に至るまで多くの友人に恵まれたのですが、彼等にさえ自分の小学校時代の事、学園の事はほとんど伝えておりませんでした。話したところでうまく理解してもらえない、変に誤解されるのではと心配したからです。ところが、以前この同窓会誌でお話しした通り、50歳を過ぎた頃、岩手県の獣医師会の酒宴の席で延々と小学校の自慢話をされる獣医さんが居られたのです。まさかとは思ったのですが、あまりにも環境が似ているのでお伺いしたところ17期の八重樫巍先輩でありました。その時の先輩の淀みなく話される思い出話と輝く瞳は忘れることが出来ません。

西窪の白壁の校舎、境の木造校舎、そして多磨の素敵なお鉄筋校舎と、学び舎は少しずつ変化はしましたが、本当に神のお導きだったので、各々の世代とも環境に恵まれた「田園の教育」を受けることが出来たのではないのでしょうか。

学園創成期に三人の先生方の掲げた理想の教育は脈々と受け継がれており、私達、同窓生はその教えが身体にしみついている訳ですからもっともっと学園で過ごした少年少女時代に誇りを持ち、自負すべきだと思います。

そして、今年10月25日には山手同窓会会長はじめお世話役の方々のお計らいで90周年記念式典が開催されます。

同窓生の多くの皆様と楽しい時間を共有しようではありませんか。

最後になりましたが、学園を支えて下さっている教職員ほか関係者の皆様に深く感謝と御礼を申し上げます。

宮子と言えば、字！

森田 宮子 (70回生)

フルート奏者 90周年記念式典 登場予定

『宮子と言えば、字！』

昨年、創立90周年記念のコンサートに先輩である本多俊之さんとともに出演させて頂いた時、須藤先生が懐かしそうにおっしゃいました。現役で活躍している担任の先生と母校で再会できる喜びは言葉には換え難いものです。それにしても、私の特徴的な字は小学校の時から今もあまり変わっていません。同級生の親友、安徒里ちゃんは絵を書くのがとても上手で、それを見て心が満たされていました。でも、私は自ら見たものを手先で再現する、という事はどうにも苦手でした。その代わりといっってはなんですが、目に見えない「聞く事」に関しては小学生の頃から得意だった記憶があります。幼い頃からあだ名のように「Miya」と呼ばれて育ち、自分の本名が「宮子」だという事が理解できず、テスト用紙の名前を書く欄に「森田宮」と書いては怒られ、頑なに自分の名前は「ミヤ」だと主張し、あきれた先生の提案で、10回の内1回は宮子と書く、という協定を渋々受け入れ、それがだんだんと5回、3回と数が減っていったのですが、自分の名前すら理解出来なかった子どもをここまで指導して下さった事に本当に頭がさがります。

数年前、実家が引っ越しをした時に小学校の時の日記が発掘されました。どんなに音楽の授業が楽しかったか、読み返していても当時のトキメキが甦ってくるぐらいキラキラとした文章で書いてありました。なぜ音楽家になったか、と聞かれる度、リコーダーの授業で笛の魅力に取り憑かれたからだ、今でもこたえています。大人になってからその事を内藤先生にお伝えしたら、「あら、宮子ちゃん、そんなに音楽が好きだったかしら？」と、当時の情熱は伝わっていなかったようなのですが、それも見越した上でのご指導だったような気もしています。内藤先生のおかげで、音楽に出会った初期衝動、その時の感動を忘れずに今日まで音楽を続ける事が出来ました。あらためて、感謝致します。

今回、文章を書くにあたり「田園の教育」創立90周年記念号をじっくりと読んでみました。緑生い茂る自然の中の学校の様子、とくに創立初期の学園の様子を大変興味深く読ませて頂きました。

「武蔵野学園」といキーワードを通して、90年間の歴史の各時代の小学生と小学生の頃の自分を照らし合わせながら読みました。とくに太平洋戦争の話は、今まで様々な場面で聞いたり学んだりした事とは違って、自分が当時の小学生だったら、という想像した事の無い目線で感じる事が出来ました。

当時の情勢の中、私立、そしてキリスト教の考え方をベースにした教育の困難さは、きっと想像するよりもはるかに大変な事だったのだろうと思います。

自分の中で存在して当たり前だと思っていた武蔵野学園でしたが、90年間続ける事は並大抵の事ではない、という事を肌で感じました。

遠足で一年に一回訪問する多摩霊園の佐藤藤太郎先生のお墓は実は私と安従里ちゃんの毎日の通学路。通る度に何気なく意識する場所でした。今度訪れる時にはきちんと感謝の気持ちを持って手を合わせたいと思っています。

さて、「字」の話に戻ります。我ながら自信のない字ではありますが、音楽のための創作ノートはどうしても直筆の文字でないとアイデアが固まりません。パソコンで打つ文字ではクリエイティブな気持ちになれないのです。

小学生の時、何の課題だったか忘れたのですが、須藤先生の授業で、ほぼ不可能な量の課題に対して、もし万が一全部出来たら褒美として一時間分の授業をドッジボールの時間に変更する、という話がありました。私は目の前に人参をぶらさげられると、必死にがんばってしまう馬タイプの人間なので、その日は奇跡としか言いようの無い集中力で、人生ではじめての徹夜をし、課題を終わらせました。須藤先生も大人の約束を守ってくださって、一時間まるまるドッチボールになりました。その時、クラスみんなに喜んでもらってうれしかったけれど、気持ちは100%うれしいだけではなくて、(当時は理解できなかったのですが) なんだか空しい気持ちが心に残った事を覚えています。

今では、その時の気持ちをもう少し理解できるような気がします。徹夜までしてがんばったのは、ドッチボールのためだけではなく、須藤先生に認められたい、ほめられたい、という気持ちが強かったのだと思います。そして、今でもその気持ちがあって、「宮子と言えば字！」と言われると、「私だって、キレイな字を書いて、須藤先生に認められたい、ほめられたい！」という気持ちがフツフツと湧いてくるのです。

いつまでも勉強したい、向上したい、という気持ちをもてる事は、武蔵野学園に行く事ができてよかったと思う数多くの理由の内の一つです。通わせてくれた両親、そして先生方に本当に感謝しています。須藤先生、いつか、びっくりするような字をお見せしますので、それまではお元気で現役を続けていて下さい…!

現在、音楽の先生は二年後輩で、音楽家として尊敬している影山郁絵先生が担当されていて、頼もしい限りです。今までの歴史と同じぐらい、いや、何倍も何十倍も武蔵野学園の教育が続いて行く事を願っています。山茶花を見る度に、武蔵野学園での6年間を思い出します。自然を見る事の大切さを一番最初に教わったのは山茶花組に入った時だったのかもしれませんが。そして、今でも自分の中でその教育は続いているし、自分の外でも、ずっとずっと受け継がれて行く事を願っています。



学園の近況

むさしの学園小学校校長 江幡 清彦

◎ 平成 26 年度学園の主な行事

4月10日	入学式
5月12日～16日	修学旅行
8月2日～7日	臨海学校（2～6年生）
9月27日	運動会
10月18日	ひかり祭 = 「けやき会（保護者会）」主催バザー
11月11日・12日	入学考査
12月6日	入学考査（二次募集）
12月18日	クリスマス礼拝
12月20日～22日	冬の学校スキー教室（4・5年生）
3月1日～14日	卒業作品展示
3月14日	卒業式

◎新校舎建設にともない、1学級定員24名（1学年48名）の子どもが学ぶ教室にしました。
1年生は1学級20名で始め、海外帰国子女とイジメや学級崩壊等による転校希望児童受け入れ枠が4名です。

昨年4月、38名（1学級19名）の1年生を迎え90回目の入学式を行ない、今年3月には90回目の卒業生40名を送り出しました。

学園の91年目の新たな歩み始めが、奇しくも全学年2学級開始の年でもありました。

◎リーマンショックと3.11大震災の影響で、現在の4・5年生は30名（1学級15名）ですが、まことに有難いことに、1～3年生は1学級18～20名と、定員近くまで回復しつつあります。

全国的な傾向ですが大震災の影響で女兒が少なく、女兒の転入希望があれば大変嬉しく思います。お知り合いの方に学園をご紹介いただければ幸いです（勿論、男児も歓迎です）。

◎ところで、「覚悟の瞬間」というインタビュー掲載サイトをご存知でしょうか。

情報機器に疎い私は知りませんでした。学園のPRが5月から1年間流れます。

好評であれば延長もあるかも知れません。衛星放送でも流れるようです。

学園に関心を持っていただける絶好の機会となりますので、お知り合いの方々に是非ご紹介下さい。宜しくお願い致します。

◎学園での教育を希望されているにも関わらず、家族の介護や共働きのためなど様々な理由で受験を諦めた方々がいらっしゃったことは分かっていました。

そこで校長就任以来「学童預かり」を模索していました。

今年度は人材を得ましたので、4月から開始致します。新たな試みなので試行錯誤が続くと思われませんが、こちらも併せてご紹介頂けたならば、まことに幸いです。

◎卒業生は3153名（会友を入れても3500名程度）ですが、毎年200人前後の方々が訪問して下さいます。

先日は、32回卒業の方が集まって訪ねて下さいました。卒業生専用室と保護者と共用の部屋があります。ご利用下さい。

また、子ども達がいる時間でしたら一緒に遊んでください。

◎学園はいつでも同窓生の来訪を歓迎しており、2階の集会室が利用できます。（上履きをご持参ください。）

第90回 同窓会新会員

新たに、「木犀組」の以下の方々が加わりました。

浅野 博岳	甘利 康志朗	井出 龍太	今井 雄大	上田 晃世
小田島 海斗	菊田 啓公	森朴 智民	杉山 功至	田中 直也
露木 俊太郎	備海 佑樹	村島 健友	山岡 紀菖	山高 友楓
吉橋 隆哉	渡辺 敬介	渡邊 万優	秋岡 志保	阿部 碧
天野 あかり	稲井 璃子	小原 萌々子	神前 葵	坂井 愛実
佐藤 杏梨	佐藤 佳穂	菅原 麻由	曾根 彩子	高橋 彩姫
竹迫 あすか	武野 詩音	中井 穂奈美	永橋 のぞみ	早川 瑞希
桧山 舞雪	福山 蒔乃	真高 佑季	宮田 結菜	森田 望愛
《会友》	伊澤 響子			

同窓生子女・孫の通学状況

古長 正令 (35)	6年生	荒川 健生 (35)	1年生
椎葉 敬介 (40)	3年生	山田 敬介 (47)	6年生
富岡 三男・和代 (57)	6年生	高橋 由美子 (60)	6年生
西野 裕仁 (60)	3・6年生	佐野 晶子 (61)	5・6年生
大村 将隆 (61)	1・4年生	内八重 めぐみ (61)	1年生
柳原 文 (62)	1年生	山田 あかり (69)	4年生

クラス会だより

今回は、特に報告がありませんでした。

訃報

謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

高宮幸子〈平井〉(12回2組)	平成24年12月
越山日出男(14回1組)	平成24年3月
小林悌二郎(14回1組)	平成24年8月12日
山岡治子〈沢井〉(14回1組)	平成24年
尾張真一郎(15回)	平成25年9月20日
岡田勉(18回)	平成24年
宮川昭(19回)	平成25年1月9日
山添景三(19回)	
瀬崎元彦(28回)	
土屋敬(28回)	
村岡護(33回2組)	平成22年7月20日
佐藤靖子(33回2組)	平成23年12月28日
大塚剛志(44回2組)	平成25年5月13日

〈 〉内は旧姓

教職員紹介

☆は卒業生 _____は新任

【教員】

江幡清彦	☆栗村江利	☆内藤朝子	須藤信晴	川瀬晴美
☆森山ゆかり	大内美和子	中川美和	☆内八重めぐみ	☆瀬川和香子
矢部岳洋	河野哲平	☆青木洋介	☆大沢大介	☆青木夕紀
☆赤羽俊紀	☆影山郁絵	金山美紀	☆島田咲彩	<u>山口亮</u>
<u>中山大路</u>	<u>山本龍樹</u>			

【事務・用務】

入間田徹夫 野毛美知子 ☆石川圭子 ☆小木曾賢 ☆山本信

【幼稚園】

☆江幡真喜子 中西沙貴乃 ☆室井勇紀 中村美沙子 鈴木雅子

【学校医】

☆野崎道郎(内科) ☆樋口洋一(歯科) ☆金沢加世子(薬剤師)

NEWS !

むさしの学園同窓会ホームページを再開しました！



むさしの学園同窓会
Musashino Gakuen Elementary School Alumni Association

〒183-0002 東京都府中市多磨町1-19-1 武蔵野学園内
Tel:042-361-9655 Fax:042-361-7288



久しく閉鎖しておりました「むさしの学園同窓会ホームページ」を再開しました。

URL は、<http://musashino-gakuen.com/dousou/> ですが、「むさしの学園」のホームページからも入れます。学園 HP トップページの左下に「同窓会」のボタンがありますので、そこをクリックしてください。

現段階では簡単なコンテンツしか掲載できていませんし、年に数回の更新しかできません。マンパワー的にも予算的にも不足しており、掲示板やメール機能もまだ装備できておりませんが、まずは HP を通じ、みなさんが関心を持たれた時に情報が届くことを一義に考えました。

今後、みなさんと共に充実させていきたいと思えます。

是非、HP に載せる情報をお寄せください。

情報連絡先： 下記のいずれかをお願いいたします。

〒183-0002 東京都府中市多磨町1-19-1

武蔵野学園内 むさしの学園同窓会 FAX 042-361-7288

*同窓会には専従の事務員がおりません。ご連絡は、郵送か FAX でお願いいたします。

〒184-0004 東京都小金井市本町6-13-16

武蔵野写真フォトダック 鴨下 洋 (38回生)

Tel 042-381-3543 Fax 042-386-0010

E-mail: duck@blue.ocn.ne.jp